

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年掲げた理念「人としての尊厳を尊重しつつ協調し合い地域に開かれた誰もが和み安らげるホーム」を継続している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、いつも見るよう心掛けている。また入居者の生活に迷いや問題が生じた場合、理念に立ち返り、その後のケアについて協議している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時、ご家族に説明し理解いただいている。また運営推進会議において、地元自治会長や民生委員の方にグループホームの理念等を話している。	○	パンフレット内に掲載し、入居希望者に説明している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会の道路清掃に参加し、隣保班の方々と交流をしている。また、施設となりの畑を無料でお借りし、地主や近所の方と交流をしている。	○	自治会総会時、運営推進会議等でアピールしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会活動や道路清掃やお祭り、文化作品展への出展など交流をしている。また、自治総会に参加し、施設の紹介をするとともに、火災、離館などの有事の際の協力、芸能発表などの慰問、お話ボランティアの依頼をしている。	○	秋に行われる作品展へ継続出展していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>自治総会、運営推進会議の場で、当法人の施設案内をし、介護施設の利用方法、料金、入居の空き状況などを説明している。</p>	○	<p>地域住民の介護の相談場所としての役割を持ちたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ミーティング時に自己評価を受ける意義を説明し、前回の評価について協議し、指摘された改善点の改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回(奇数月)、会議を開催し、家族や自治会長、民生委員、地域包括職員に入居情報、行事報告などを説明。また参加委員からの要望、質問に答えている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議後、議事録を作成し市役所へ出向いている。また、運営に関する規程など随時、指導していただいている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>県社協等からの研修案内に目を通してはいるが、早急な必要を感じず積極的な参加は出来ていない。</p>	○	<p>研修会等へ参加できる体制を作っていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内での勉強会や、虐待に関するニュースが報道された場合、直近のミーティング時資料や新聞記事を配布し、注意を呼びかけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には、契約する前に施設内の見学及びグループホームについての説明など行い、理解・納得を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見、不満、苦情等は現場職員が受け管理者へ報告。必要に応じて家族に連絡し、対応を協議している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や面会時に近況報告をしている。健康状態の変化について治療等が必要な場合は随時報告している。預かり金に関しては、毎月計算し、ご家族へ報告。職員の移動等があった場合は、玄関先の掲示板等を使用している。	○ 家族会等、入居者と家族が会える機会を作っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時にご家族から意見を頂いている。また玄関先に意見箱を設置し、意見をしやすいよう配慮している。直接言いづらい苦情等については、重要事項説明書内に記載してある市の苦情窓口を利用してもらうよう説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見や提案を聞き全スタッフで協議している。その場で言いづらい意見等については、個々に話を聞き入れている。	○ もっと自由な意見が言えるような環境にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族会や外出などの行事がある場合、出勤時間を変更したり、出勤人数を増やしたりしている。また、併設のデイサービス、訪問看護、訪問介護からの応援要請をすることもある。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職する職員が発生する場合、後任者がスムーズに入居者と関係が構築できるよう勤務時間や内容を考慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われる法人内の勉強会に参加するとともに、新しい入職者には、できるだけ早い時期に県主催の実践者研修基礎課程を受講してもらっている。また介護支援専門員や介護福祉士の受験対象に達した職員には積極的に受験されるよう指導している。	○ 出来るだけ研修等へ参加できるよう計画を立てていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型認知症対応施設連絡協議会に加盟し交流を図っている。その他、法人内のグループホーム間で入居者状況や意見交換を随時行っている。	○ 同法人内の施設だけでなく、市内の他の施設とも交流を持てればと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人親睦会主催の職員旅行やボーリング大会、ソフトバレーボール大会への参加、施設内の親睦会の開催、グループホーム職員による食事会を開きストレスの軽減に取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護支援専門員や介護福祉士等資格取得を促し、給与に反映できるようにサポートしている。また永年勤続者への表彰や研修旅行、サービスを学ぶためディズニー研修を定期的実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの入居希望が多く、ご本人の理解が得られていない場合が多いが、本人の理解が得られるようご家族と一緒に説得している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に利用していた施設やケアマネージャーから情報を得て、ご家族との面接の場を設けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況をお聞きした上で、同法人内の施設の説明や同地域の介護施設の説明等行い、必要に応じ担当者への連絡調整を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得するよう何度か足を運んでいただいたり、併設のデイサービスを利用してからグループホームへ移行した実績もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の方々を常に家族という意識で接し、一番の良き理解者になれるよう心掛けている。また、料理や伝統行事など長年の経験や知恵を享受してもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話等によりご本人の状況をお話するとともに、ご家族から悩みや相談を受け入れられるよう信頼関係の構築を心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の孤独感やこれまでの家族との絆が薄れないよう外出や外泊、面会等の機会を設けていただけるよう常にご家族にお願いしている。	○	出来る限り、ホームへの面会、外出をお願いしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に了解を得た上で、今まで付き合いのあった方々との交流ができるよう配慮している。墓参りなど法事関係の出席等もご家族に依頼している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に入居者間の関係を把握し、食事等の席の配慮をしている。またハンドベルや作品作りなどのレクリエーション、料理の下ごしらえ等入居者同士が関わり合えるよう場を提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移る際にも、いつでも相談にのる旨の話させていただいている。グループホームから特養へ入所された家族から特養での生活が馴染めず再度入居してほしいとの連絡があり、同一法人内のグループホームを紹介した実績あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ご家族やご本人より情報を得た上で、ご本人の意向を見極め、その人らしく生活が出来るよう努めている。また、毎日の新聞の読み聞かせ等から、「行きたいところ」「食べたいもの」などを聞き出し外出や料理の参考にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族やご本人、入居前に利用していた介護施設、ケアマネ等から情報を得ている。	○	日々の会話やご家族の面会時等の話から情報を聞き出し記録していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居して最初の1週間程、その人の生活パターンをチェックし把握するように努めてる。また定期的に訪問する訪問看護師に心身状況などの情報交換を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族等の意見を聞きながら、毎月行われるミーティング時に、課題やケア方法について話し合い、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティング時に見直しを行い、変更ある場合は期間に関係なく新たな計画書を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子など個別記録に記録するとともに、特記事項については日誌に記入し、朝夕の送り時に情報を供している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの生活が困難になった場合、入院してグループホームへ戻る希望があり可能と判断した場合、同一法人の老健施設を紹介している。また、他施設等を希望の場合、居宅介護支援事業所のケアマネを紹介している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	慰問やボランティアの受け入れや消防署による避難訓練や救急救命講習、警察による離館事故などの発生時の対応等強力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所希望がある場合、必要に応じてケアマネージャーやサービス事業者と連絡調整を行う。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特になし。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化等早急に対応できるよう、ご家族と相談し同一法人のクリニックをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療や定期薬の処方、急変時の往診を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化し看取りをするケースがないので、今後看取りに関する勉強が必要と考える。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活暦や職場での役職等を尊重し接するよう心掛けている。また入居時に個人情報に関する取り扱いについて説明し、同意を得ている。記録物に関しては鍵のかかる棚に保管し、必要時取り出している。	○ 馴れ合いの中から、入居者に対して言葉が乱れることあり。職員間で注意を払いながら業務にあたりたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食材を一緒に買いに行った際、自分の買い物を出来るよう配慮したりしている。また、外食に行った際も、自分の好きなものが食べられるようメニューを選んでもらっている。食事のメニューに関しても、食べたいものを聞きながらメニュー作りをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のある程度の日課は出来ているが、朝、寝ていたい時は、朝食の時間を他の人に合わせることなく、後で召しかがっていただくなど配慮している。日中も本人の意思を尊重し、部屋で過ごしたり、ソファで過ごしたり配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員の着させやすい服装にするのではなく、本人の意向を汲みながら更衣の手伝いをしている。特に家族等との外出時は、本人の気になっている服装にするよう心掛けている。月に1回、訪問理容が来ており、本人の希望を聞きながら整髪してもらっている。毛染めなどは、本人の希望で職員が対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの皮むきなど下ごしらえ、お茶だし、テーブル拭き、配膳などできる範囲で入居者の方と一緒に準備している。また、食事中は音楽を流しながら職員も一緒に食べている。介助が必要な方、利用者間でトラブルがある方などを考慮しながら配席をしている。食べ終わった後の食器は、入居者の方に拭いてもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きなお菓子等は家族にお願いしたり、一緒に買いに行ったりし、事務所で預かり、食べたい時に小分けに渡している。自己管理できる人はその限りではない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導などからその人の排泄パターンを見つけ、極力トイレでの排泄に心掛けている。排便コントロールの難しい人には、マイナス何日目等で下剤や坐薬にて処置している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる状態になっている。毎日入られる人もいるが、入浴拒否の見られる方も色々な声かけをしながら入ってもらっている。立位保持が困難で介護量のかかる人は、デイサービスの入浴時間をお願いすることあり。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯など季節に合った香りを楽しめるよう支援している。	○	無理なく入浴できるよう、手すりなどハード面の設置を考えた。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床時間は概ね決まっているが、就寝時間に関しては特に定めていない。その日の疲れ具合、健康状態を考慮し声かけをしている。また気持ちよく入眠できるよう温かい飲物を提供したり、不穏で眠れない人には、夜勤者が寄り添い眠くなるまで話を聞いたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ等の準備、洗濯干し、掃除など個々の能力に応じお願いしている。また共同で作品を作ったり、気分転換に日光浴や散歩に出かけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る人には、他者とのトラブルが起らないようご家族に了解を得て、自己管理してもらっている。食材を買いに行くとき一緒に行き、好きなお菓子や必要品などを購入してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者は隣接のデイサービスへ行き、慰問やおやつ作り、作品作りのレクに参加したり、利用者とお話を楽しんでいる。また月に1回は外出する機会を設け、レストランやショッピングモールでの食事を計画している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やもみじ狩りなど季節ごとのドライブや外食などを計画し実行している。また家族会でご家族と一緒にドライブを楽しむ機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から了承を得た上で、親類や馴染みの人などの住所を聞き、暑中見舞いや年賀状を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時、家族会時に、なるべく面会や外出に連れ出している。ただけよう声をかけている。あまり面会に来られない人に配慮し各部屋で過ごしてもらうようお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員で作成した拘束マニュアルに則り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	マニュアル遵守のため、定期的に勉強会を開催したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がかかっているが、他者の部屋に入り、物取りをしてしまうトラブルがあるので、つかい棒などで本人以外に入れないよう工夫している。夜間は防犯上の問題もあり施錠している。日中は、職員が手薄になる時間以外は開錠するよう心掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、勤務職員が声かけしながら入居者の所在を確認している。夜間は、夜勤者が定時の訪室にて確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時、ライターなどの火類、ナイフなどの刃物は、持ち込まないよう本人及びご家族に話をしている。食事の準備に使用する包丁等の刃物は、必ず職員が付き添い危険のないよう対処している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で情報を共有し、事故の再発、防止に心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の勉強会の他、消防署の普通救命講習を受講している。	○	年間行事企画を作り定期的に開催したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回総合避難訓練を行っている。また、自治会の総会や運営推進会議の場で、有事の際の協力を呼びかけている。	○	地域の人も参加した災害訓練を実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時、家族会時に、現在の健康状態などを報告している。また、転倒などの事故、健康状態の変化で受診が必要な場合など、逐一ご家族に報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調変化や異変は記録に残し、職員間で情報共有している。また必要に応じて、訪問看護や主治医へ報告し、受診などの対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の処方箋を保管しており、把握するよう取り組んでいる。また必要に応じて、インターネットを活用し薬の効用などを調べ情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各々の排泄パターンを把握し、服薬だけでなく、水分摂取の見守り、繊維質の多い料理などの提供などを心掛けている。また、ラジオ体操など体を動かす時間を設けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人できない人には介助している。総義歯、残存歯の有無により個別に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は同一法人の献立メニューを参考にし、職員が作成している。食事量、水分摂取量などは個々の記録に記載している。糖尿病の人には主治医から指示でカロリー制限をしたり、出きる限り自力で摂取してもらうため、一人ひとりの状態に合わせて刻み食などの形態で食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する研修に参加したり、法人で作成した感染対応マニュアル等を活用している。食中毒やインフルエンザにかからないよう年間を通じて手洗い・うがい・手指消毒の徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、毎日使用しているまな板や包丁、台布巾などは毎晩ハイター消毒を行っている。また、食器類についても定期的に消毒をしている。生もの等の食材はなるべく買い置きせず、その都度購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が分かりづらいため、看板を設置している。また玄関先等には、季節の花などを飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、入居者が落ち着けるよう配慮に心掛けている。また、季節感のある花や作品を作成し飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルの他、ソファーや畳スペースで会話を楽しんだり、作品作りや洗濯物畳みなどできるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、馴染みの家具類やご家族の写真など自由に入れてもらえるよう依頼している。お箸や御飯茶碗、湯のみ等もできるだけ今まで使用していたものを持参されるよう依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋にはエアコンが設置してあり、各々の適正温度で過ごすことが可能である。また共有フロアにはエアコンの他、床暖房も入っているため寒い冬場でも快適に過ごすことができる。毎朝、お部屋の掃除時、窓を開け換気にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下等、必要な場所に手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所や各部屋に名前をつけ、入居者が混乱しないよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスが設置されており、その部分に花を置いたり、天気の良い日にはそこでお茶を飲んだりして過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症状が徐々に進行していく中、入居者の方々にとってこのグループホームが終の棲家として安心して和やかに暮らせるような家庭的な雰囲気大切に、入居者にとって一番の理解者になれるよう馴染みの関係の構築に日々努力しております。また、ご家族の悩みや不安、心配事に耳を傾け、少しでもご家族のストレスが解消されるような信頼関係を築き、「ゆめさきに出会えてよかった」と安心してもらえる場所でありたいと考えております。